

学校再開へ向けて

日頃より本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休校が続いています。5月14日(木)に政府の方から山梨県に対して緊急事態宣言の解除がされ、それを受けて、中央市では5月24日(日)午前中に始業式、午後入学式を行い、25日(月)から学校再開となります。緊急事態宣言が発令されていたため、入学式については実施を見合わせており、特に1年生の保護者の皆様には大変ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。3つの密(密閉、密集、密接)を避けるため、2、3年生が参加する始業式は、例年行っている体育館ではなく、校庭で、生徒同士の間隔も広めにとり実施したいと考えています。入学式についても、参加者を1年生と1年生の保護者と教員とし、生徒同士や保護者同士の席の間隔を広めにとるなど、3密を回避するようにしていきます。生徒にとっては、長い臨時休校が続く、勉強や運動も満足にできない状況にあり、早く収束することを願うばかりです。また、保護者の皆様におかれましては、大変なご負担をおかけしていることと存じます。ご協力に改めて御礼申し上げます。



本校では、学校として生徒の規則正しい生活を支援するために、本校オリジナルの「家庭用 時間割表」を用いた家庭学習を、令和2年5月7日(木)から開始しました。学校がある程度、毎日の学習の目安を示すことで、生徒はもちろん、保護者の皆様の支援にもつながると考えたからです。当然、この方法がベストだと思っているわけではありません。生徒が意欲的に学習に取り組むためにはどうしたら良いのか、この「家庭用 時間割表」をベースに教職員一同、一層の充実・改善を図り、学校再開へつなげていきたいと考えています。また、分散登校についてもご理解とご協力ありがとうございます。分散登校を通して、家庭学習の補充や学習の進捗等を確認し、学校再開へ向けて規則正しい生活リズムをつくってほしいと考えています。過日、分散登校の際に生活アンケートを全校生徒に実施しました。アンケートの結果から、この臨時休校中の生徒の様子として、メディア(ゲームやスマホ等)視聴の時間が増加していることや就寝時刻が遅くなっていることが気になりました。是非ともご家庭でもご指導をお願いします。臨時休校中の子どもたちの学びをどう保障していくのか、また学校再開後の教育活動全般についても、市や県の動向を注視しながら、常に生徒のことを第一に考え、今後の教育活動を工夫してまいります。これからもご理解とご協力をお願いいたします。

マスクを寄贈していただきました

最近はやっとマスクも手に入るようになりましたが、なかなか手に入らない時期が長く続いていました。4月28日(火)に中央市にある男子の制服や本校の体育着を扱っている山梨管公学生服株式会社の越剛宏(こしたけひろ)部長が、本校の生徒と先生方へと布製マスク450枚を寄贈してくださいました。なかなかマスクが手に入らない4月上旬に、以前から親交のあった越部長に依頼をし、マスク用の布が手に入らないか尋ねたところ、今回のマスクを本校のために取り寄せてくださいました。



5月11日(月)分散登校のときに、越部長に来校いただき、生徒を代表して生徒会長の見代遥花さんに参加してもらい、マスクの贈呈式を校長室で行いました。見代さんからは「なかなか手に入らないので、マスクを今回いただけてとてもうれしく思います。大切に使いたいと思います。」と感謝の言葉がありました。本来なら全校生徒の前で紹介したいところですが、休校中ということと考慮し、少人数での式とさせていただきました。本当にありがとうございました。

子育ての芯①～『ゲーム障害』大丈夫ですか～

皆さんは、『依存症』（いそんしょう）をご存じでしょうか。5月9日（土）の山梨日日新聞に『休校長期化で子どもの利用増 ネット、ゲーム依存懸念』という記事がありました。このように我が国政府や文部科学省は、この問題に大きな危機感を感じています。今日はこの依存症について一緒に考えていただきたいと思います。

まずは、依存症の大枠をとらえ直してみましよう。よく言われる『依存症』は2種類に分類されます。一つは『物質依存』と言われるもので、ニコチン・アルコール・カフェイン・薬物など特定の物質がやめられなくなっていくものです。もう一つは『行動依存』＜医学的には行動嗜癖（こうどうしへき）＞です。これは、ギャンブル・ゲームなどの行動がやめられなくなっていくものだそうです。特にこの度、世界保健機関（WHO）が国際疾病分類で『ゲーム障害』を『ギャンブル障害』と並べて、依存症として位置づけたことで一気にオンラインゲームやオフラインゲームの危険性の認識が世界に広がりました。

保護者の皆様は、『物質依存』がたいへん危険なものであるということは、既に認識されていることと思います。特に薬物については、最近の人気歌手や俳優などの逮捕に見られるように、身近にその恐ろしい誘惑が迫っていることに危機感を抱いていることと思います。それと並んで『行動依存』の恐ろしさ、特に『ゲーム障害』の恐ろしさも改めて認識していただければと思います。現代の日本社会では、いつでもどこでもオンラインゲーム、オフラインゲームができる環境にあります。そして、あまりの楽しさにゲームにのめりこんでしまう人が増加していることが社会問題となっています。何が問題かという、**のめりこんでいくと、自分の行動をコントロールすることができなくなり、生活の中の優先順位が変わってしまい、はたから見るとおかしい行動をとるようになり、最悪全てを失うことになるケースがあるということです。**

＜『行動依存』が及ぼす影響＞

◇健康の問題

- ・睡眠や食事が疎かになる
- ・身体や精神の障害
- ・性格の変化

◇家庭の問題

- ・家庭内の暴言や暴力
- ・家族の健康状態の悪化
- ・家族関係の崩壊

◇生活の問題

- ・仕事・学校を休みがち
- ・周囲からの敬遠
- ・失業・退学や借金

◇対人関係の悪化

- ・友人・知人が離れ孤立



このように大変怖いものなのですが、なかなかその怖さが認識されていないのが現状です。2018年6月にWHOは、次のようなことが12カ月続く場合を『ゲーム障害』としました。

- 1 ゲームの使用を制御できない
- 2 ゲームを最優先する
- 3 問題が起きてもゲームを続ける
- 4 ゲームにより個人や家庭、学習や仕事などに重大な問題が生じている

また、小学生や中学生の場合、ゲームを始めて3～4ヵ月で深刻な状況になるケースもあるため、重症の場合は12カ月未満でも『ゲーム障害』に該当するとしています。

皆さんのお子さんは大丈夫でしょうか？とにかく予防を心がけることが大切です。もし疑われる場合は、**早期に学校に相談していただいたり、医療機関を受診していただくことが大切です。**依存症の人は自分が依存症ということに気づかないことが多々あります。また、平気でそのことについて嘘をつきます。でもまずそうなる前にルール徹底と、ルールが守れているかの定期確認、そして、適切な生活習慣の確保に努めていただければと思います。**予防のポイントとしては、①ゲームの視聴時間、ゲームのプレー時間を決める、②徹夜などで生活リズムを崩さない、③休校期間中にやるべきことをつくる**とあります。現代は、大人の金もうけのために誘惑があふれていて、本当に子育ての難しい時代だと思います。しかし、私たちの大切な宝である子どもたちを良い方向へ導いていけるよう、休校中の生活、学校再開後の生活についてもご指導をよろしくお願いいたします。